

- ◎ 発行:富士見台地区協議会
- ◎ 発行責任者:武藤貴子
- ◎ 連絡先:調布市協働推進課
042-481-7036
- ◎ 発行日:令和5年9月

私たちの調布を襲う水害は 多摩川の洪水だけではありません 内水氾濫の危険が明らかにされました!

今年3月に調布市から新たに「洪水・内水ハザードマップ」が公表されました。これまでの「洪水ハザードマップ」が改訂され、新たに「内水ハザードマップ」(裏面に富士見台小学校付近の拡大図を掲載)が加えられています。市役所や地域福祉センターなどで配布されていますので、ぜひ確認してください。調布市のホームページでも閲覧できます。

市街地に降った大雨などで、雨水が溢れたり、マンホールから水が噴き出したりして起きる洪水が内水氾濫です。

調布でも2019年10月の台風19号による豪雨では、雨水の行き場がなくなって地形の低い地域へ流れ込み、染地3丁目などで200世帯を超える浸水被害が生じました。

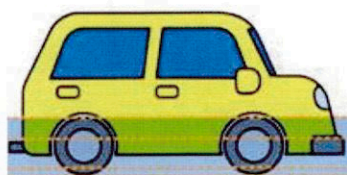
また、道路も多くの地点で冠水し、通行止めとなりました。

新しいハザードマップでは、多摩川の氾濫や集中豪雨などによる内水氾濫の際の道路の浸水状況が明確にされています。これを見ると多くの道路で浸水することがわかります。

多摩川が氾濫しなくても品川通りでは1mを超える浸水深が想定され、鶴川街道などの坂道の多くでは濁流が流れ下る恐れもあります。

自動車は30cm以上の浸水深があるとマスクから水が入って走行できなくなる危険があります。車が水で流されると、徒歩の避難者の通行を妨害することにもなります。

歩いて避難する場合は、成人男性では浸水深が50cm、老齢の女性では30cm、小学校5~6年生では20cmを超えると歩くことが困難になります。



50cm 車体が浮く流される

30cm エンジン停止

10cm ブレーキ効きにくい

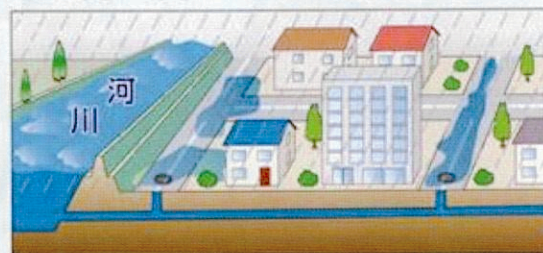
今後、気候変動により集中豪雨などの発生が増えると言われています。多摩川の氾濫に先んじて内水氾濫により道路が冠水してしまうことも想定されます。

集中豪雨や台風などで水害が想定されたときには、徒歩での避難が原則ですが、高齢者などのためにどうしても自動車での避難が必要な場合は、市の「避難指示」を待たず、「注意情報」や「高齢者避難」の段階で避難しましょう。空振りになっても、それが安全性が高く、他の人に迷惑をかけることもない避難行動です。被災時に我々に出来ることは、はやく避難することです。素早く行動を起こせるように日頃から心構えをしておきましょう。

改訂されたハザードマップを見て、避難に利用する道路の状況などを確認し、安全な避難路を見つけて事前に歩いてみることも大切です。

内水氾濫とは

下水道等の排水施設の能力を超えた雨が降った時や、雨水の排水先の河川の水位が高くなった時等に、雨水が排水できなくなり浸水すること



「調布市洪水・内水ハザードマップ」より

水がひざ上まできている場合は、避難は危険

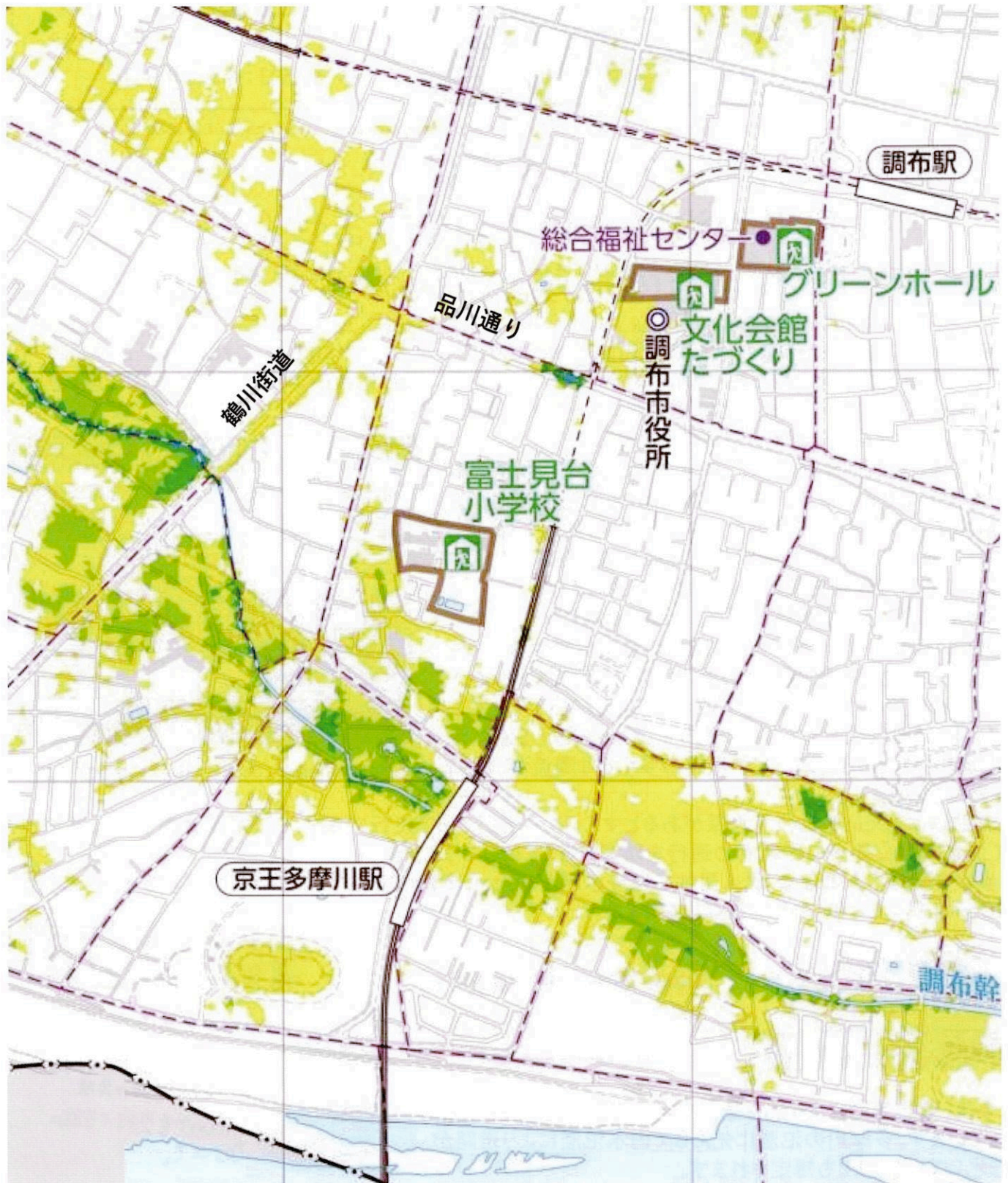
人は、水の中で思ったように動けない

浸水が50cmを上回る
ときの避難は危険




20cmでも歩行不可能になることも。



内水ハザードマップ／富士見台小学校付近の拡大図



浸水想定区域(内水)
浸水ランクの目安

-  1.0～ 2.0m未満の区域 (1階の軒下まで浸水する程度)
1.0m～less than 2.0m
-  0.5～ 1.0m未満の区域 (大人の腰までつかる程度)
0.5m～less than 1.0m
-  0.1～ 0.5m未満の区域 (大人の膝下までつかる程度)
0.1m～less than 0.5m